

## 普段着のわたしたち

先月にパルコで開かれていた「キューライス展」に行きました。

ご存でない方も多いと思いますが、インターネットで作品を公開



されているイラストレーター・漫画家の方です。「キューライス」で検索されるとたくさん作品が出てきます。 入場無料というのが嬉しいですね。

征阿



幼稚園から毎週通うスイミングスクール。学期末に催された「プール参観日」。

園児の楽しそうな様子を眺める保護者たちですが、

室内プールなので室温32度、湿度は尋常ならざる値で不快指数 MAX。この夏、これほど汗をかいたのは初めてでした。40分の授業、私は耐えきれず20分でそそと退散。

後で愚息から「ママ、途中で帰ったでしょー」と責められる始末。

次回の参観日は親も水着でプールに入れて欲しいものです。

訶梨帝母

当町内会の散歩道先生直伝の「トマト井」です。レシピはありません。要するに王道の「親子井」の鶏肉



をトマトに代えただけのものですが、井本来の甘辛さとトマトの酸味のマッチングとシンプルさが夏に良いです。と言いながら私はそこに油揚げをどうしても入れたくなってしまう。油揚げ入れたら「きつね井」や！と井神からせめたてられます。めんどくさいので「不倫井」と銘々させていただきます。散歩道先生にはまだお許しをいただいております。

俊徳丸



毎年、南東の門部屋への直射日光を緑のカーテンで遮っています。今年は宿根あさがおのケープタウンブルーを植え付けました。すくすく伸びてツルが軒下まで届いたのは良いのですが、一向に花が咲きません。一緒に植えた百日草は機嫌良く咲いているのに。7月の日照時間が極端に短かったからかなあ。

迷走坊

『友引町内会通信』はパソコンやタブレットでもお読みいただけます。検索は<http://www.daigoji-temple.jp/> 「友引町内会通信」をクリックしてください。寺務局

## ウエルカムBON三兄弟



毎年6月も下旬になりますと、当寺では舟に乗った「ウエルカムBON三兄弟(ウルトラマン兄弟お二人とカオナシ)」が登場し、盂蘭盆の諸行事をお知らせしております。

岐阜の盂蘭盆は東濃地方と岐阜市の中央部の一部が7月盆ですので、7月初旬から始まり8月下旬まで施餓鬼会等のお盆のお参りが続きます。阪神タイガースの「死のロード」15連戦より長い夏の日です。7月盆はまだ体が夏の暑さに十分慣れていません。早寝をして体調を整えなければなりません。



今年も7月13・14日、東濃地方の盆参りをさせていただき、山間部の集落80軒の檀家さん宅を訪ねました。檀家さんから檀家さんへ坂道を歩くお参りとなりますが、濃尾平野の中



央部分で生活している私にとっては毎年新し

い発見がありわくわくします。当方では蓮根の産地が近くにあるためお盆の御供えは蓮の葉っぱを敷き野菜等をのせます。多少の殺菌作用もあるようです。それに比べ東濃地方では山に自生する桐の葉っぱが敷かれています。桐の葉っぱはやわらかく蓮に負けない程巨大なものです。同じ山の葉っぱでは、自家製の「朴葉寿司」がお供えしてあります。朴葉も同じく大型ですがその形に何とも言えない愛嬌があり詩人の坂村真民さんも愛しました。よく洗った朴葉に寿司飯を盛り好みの具材を載せます。以前は山菜や野菜を甘辛く煮たものが主な具材でしたが、最近では奈良の「柿の葉寿司」の如く、



鰯やサーモンなどが新しい具材に加わりました。読経が終わるとお供養で朴葉寿司を勧められます。それを丁重にお断りしなければなりません。そのお家によっては朴葉を広げるとその具に「へボ(クロスズメバチの蜂の子)」が入っています。きっと美味だと思いますが、私は見た目がどうしても苦手です。

ご年配の方のお話では、朴葉寿司が作られるようになったのは比較的最近のことだそうです。昔は朴を枝ごと取って来て、枝についた葉でお餅を包み、それを煮えたぎった大釜の熱湯に枝ごとくぐらせ風にさらしたものをお供えしたそうです。枝に朴葉餅がいくつもぶらさがった光景はおもしろそうです。俊徳丸



八月二十三日は白虎隊の日。

ご存知の通り、白虎隊とは幕末の会津藩で戊辰戦争を戦うために兵制され、飯盛山で壮絶に自刃した十六歳、十七歳の悲劇の部隊。時は慶応四年（1868）八月二十三日。すでに江戸は東京と改称された後の出来事。

動乱の幕末、会津藩主松平容保公は都の警備の為、京都守護職を拝命し、孝明天皇からの信頼厚く、ご宸翰<sup>しんかん</sup>を受くること数度。天杯、緋の衣を賜り、間違いなく勤皇であった会津藩。それがたった六年で賊軍とされ、逆に、御所に砲弾を撃ち込み帝の拉致を企てた長州が、なぜか錦の御旗を掲げる官軍。禁門の変（1864）では手を携えて長州を追い落とした薩摩藩が、そのテロ集団長州とつるんで今や会津を討伐せんと北上。会津の人々は、何が何だかさっぱりわからないけどあいつらは絶対許せない。特に薩摩は勘弁ならん。幼き頃より文武両道、孝悌、忠信、篤実など武士道教育を叩き込まれた会津藩士は、やすやすと

理不尽な薩長の軍門に降ることはできない（恭順の意志を示すも薩長から平和的解決を拒まれ）と抗戦体制を敷くも、結果、壮烈な最期を迎えます。白虎隊のみならず、二本松少年隊、娘子軍、数千の老若男女が義の為に殉じました。あれから百五十年、今でも会津の人は薩摩の人と姻戚関係を結ぶのを拒むとか。異国人との戦争より、同じ日本人であるがゆえに、傷は根深いのだろうと想像します。

## こもりうた55

歴女、墓マイラーなどという言葉が流行る前から墓参り好きの私は、平成七年の盆休みに友人と二人で東北三泊四日の旅へ（当時会社員）。会津飯盛山を訪ね、白虎隊士の墓参りをしました。

鬱蒼とした緑、

蟬しぐれ、苔むした墓石。一基



一基に線香を手向け静かに低頭合掌。その隣で「墓あ？ 暑い中登ってきたのに墓しかないの？ この三日間、寺と墓ばかり。

もおーコレは誰の墓？」と不満を垂れ流す友。「ここを降りたら猪苗代湖でボートに乗せてあげる。その後喜多方へ行ってラーメンご馳走するから少し黙っとけ。」とだめつつ。

友は白虎隊、新選組、忠臣蔵、源平、何を説明しようとも「それってチャンバラでしょー」と一言で片付けてしまう女でした。

これは当時、墓地で頂いた御朱印。



近年、飯盛山墓守五代目の方が、「御朱印を出すのに時間がかかりすぎ、手際が悪い」と文句を言われたり、転売目的の現状を憂いて御朱印をやめたとのニュースがありました。無理からぬ事とお察し申し上げます。義を重んじる会津人からすれば「ここは観光スポットにあらず。ならぬ事はならぬです！」と言いたいところでしょう。おかしなブームが早く過ぎ去る事を念じます。

## 佛教と経済学は車の両輪

最近、何人かから同じことを聞きました。

「道徳なき経済は泥棒であり、経済なき道徳は寝言である」二宮尊徳の言葉とか。

お坊さん相手に経済の話はしません。以前、「お寺は企業とは違う！」とムキになって怒られたことがありましたので。

佛教は道徳を説くものではありませんが、経済学と同じで人間を幸福にするためにあります。むしろ、宗教は現代経済学の重要な研究テーマですとおっしゃるのが慶応大学の中島隆信教授です。2004年に『お寺の経済学』を上梓されました。判りやすい内容なのですが、今この本は中古書店にしかありませんので、かいつまんでご紹介しましょう。

大乘佛教に「一切衆生悉有佛性」という教えがあります。(人はみな佛になれる種を持っている)要素(佛性)はあっても、煩悩に支配されているため表にでてこない。この佛性と煩悩の関係は『如来蔵經』に煩悩をミツバチ、佛性を蜜に喩えた説明があります。

蜜を取ろうとしてミツバチを殺してしまつては次回から蜜を得ることはできない。ミツバチ(煩悩)を上手に追い払って、蜜(佛性)を手に入れる方法を考えねばならない。

ここで煩悩を経済活動(毎日の労働)、蜜を信仰心だとしてみましょう。厳しい競争社会の中で仕事に疲れ、心の安息が得られません。そこで、時には仕事から離れ、佛に成るための実践(布施行)を行うのです。

お賽銭を払うためには元手が要ります。そこで再び煩悩の世界に戻り、経済活動に勤しむことになります。

中島教授は、佛教の教えと経済学は車の両輪、決して対立しないとされます。



ペダルをこぐと後輪が回転し、自転車は前へ進みます。精力的に仕事をし、暮らしを良くする原動力です。しかし、後輪だけでは不安定で、どこへ行くか判らない。そこで前輪の役割をする佛教が必要になる訳です。

進むべき方向をコントロールし、スピードの出し過ぎを制御するブレーキは前輪の上にあるハンドルで行うのです。

病気の痛みや苦しみを取るのは、現代では医学の役割です。対して、宗教の役割は心の救済です。例えば、大事な人が亡くなった時に受ける苦しみは科学では解決できません。

佛教では苦しみの原因はこだわりにあると考えます。「私は絶対に正しい」という傲慢さから生じます。自分の愚かさを認める寛容性、不完全な自分を受け入れる謙虚さ、それが心の苦しみから離れる最も有効な方法なのです。問題は、本当に体得するには不断の努力が必要であることです。

人は知らないことに会おうと先ず否定から入ります。一応受け入れる柔軟性も必要です。

次代を担う若い僧侶たちへ(遺言その1)  
泥棒の寝言を言わない。 迷走坊

## 『私説法然伝』(55)

陰謀術数④

先月号では「鹿ヶ谷の陰謀」の後の動きについて書きました。今月号はその続きについて書きます。

【治承三年十一月十四日、清盛は数千騎を率いて福原から京の都へ「突入」した。つまり事実上の軍事クーデターである。反平家であつた関白松殿基房卿は解任され、近衛基実の子の基通を内大臣・関白・氏の長者とした。この強硬策に後白河帝は何も対抗することは出来なかつた。後白河帝は本拠地の法住寺殿を占拠され、鳥羽殿へ幽閉される事になる。政治権力は親平家派で固められた。「日本秋津島は僅かに六十六ヶ国、平家知行の国三十余ヶ国、既に半国に及べり」と『平家物語』に書かれた通り、平家政権の絶頂期を迎えたとも言える状況である。しかし、これが反平家運動に火をつける結果になつた。

治承四年(一一八〇年)二月に高倉帝は

わずか三歳の皇太子に譲位された。安徳天皇の誕生である。これで天皇の外祖父となつた清盛は厳島神社への安徳天皇の行幸を強行する。天皇の行幸始め・初めての社参は石清水八幡宮・賀茂神社・春日神社であるという「慣習」を無視した清盛への比叡山延暦寺をはじめとする寺社勢力の反発は大きかつた。こうした寺社勢力による反発と介入を避け、さらに今後の西国を中心とした交易を基軸とした「政権」を作るために清盛は自らが作る福原への遷都を断行する。その状況下で立ち上がったのが後白河帝の弟の以仁王である。四月九日、平氏追討の命を各地の武士に下したのである。この行為を後白河帝は黙認する。しかし五月十五日に平家政権によって計画が察知される。以仁王は源頼政らの軍勢を従えて興福寺へ向かう途中の宇治で平家側の軍勢と交戦し、敗北する。以仁王の「クーデター」は失敗に終わった。だが以仁王の挙兵が東国の武士団の挙兵を促すことになった。八月に伊豆に配流されていた源頼朝の挙兵に続き、甲斐源氏武田氏や頼朝の従兄弟の

信濃源氏義仲などが挙兵する。一旦は平家側の軍勢に敗走した頼朝だが立て直し、十月に鎌倉を本拠地とした。これを東国における反平家政権のための「政権」の始まりとも言える。反平家活動は九州など各地で相次いだ。平家側は頼朝打倒の為に軍勢を東国へと差し向けるが、富士川の戦いで敗退する。頼朝ら東国の軍勢は敗走する平家の軍勢を追撃はしなかつた。関東における自分たちの「政権」の基盤強化のために鎌倉へと帰還したのである。鎌倉に戻った頼朝は武士団を統括する「侍所」を設置。翌年に元号が養和となつたが、頼朝はこれを使わなかつた。これは頼朝を首魁とする東国武士団による鎌倉軍事政権の樹立とも言えることであつた。】



以仁王肖像

以下次号に続く(征阿)



## 続・観経物語(2)

今回から観経と言うお経の内容を、簡略にまとめて歌のようにした「観経要讃」を読んでいきたいと思います。

### 観経要讃

一、佛説無量壽観経は

至心に深く弥陀佛の

慈悲に目覚めて光りある

人をぞ造る教へなり。

この要讃の作者である、関本諦承師は、要讃の始めにあたって、ご自身が体得した観経の世界観(「昧読した境地」)を、特に観経の一場面ごとの展開を説明的に解釈するにあたって(「依文」と言う)冒頭に観経全体の内容を自身の宗教的経験(「げんぎ」)を以て包括的に捉えた(「玄義」と言う)ものを主題として示されました。

それでは関本師は独創的に全体像を把握されていたのかというと、ほとんど全てに

亘って中国の善導大師の「観経疏」という観経の注釈書の観経理解に沿ったうえに、師の宗教的、思想的理解を加味されて、独自の観経理解を作り上げられたのです。

師は全体像を示すにあたり経の題名を通常の「佛説観無量壽経」から「佛説無量壽観経」と読み替えています。師は観経は無量壽佛(阿彌陀佛)を観察する方法を説く修行の経でありながら、無量壽佛の存在そのものの、本質の意味を知って受け止める経であると、釈尊の所説の意義を押さえておられます。

では無量壽佛の本質とは何か？師は「弥陀佛の慈悲」と言って阿彌陀仏が慈悲の佛であり、その慈悲より人々を救い取ると言う誓願を起こして成就したのが本質であり、逆にまた人々の本質は何かと言えば、「至(誠)心に深く(深心)「行いの本質を尋ねて見れば、煩惱愛欲にまみれ、一つの誠もなく、善を喜び行わず、真実心もないのが本質と気づかされるのである。自身のこの真実を知ったこの時に始めて人々は真実はみな佛(身)にあり、慈悲が佛の本質である

ことを知るので。

こうしたとき、人々は佛の真実心にいかされていると気づいて(他力本願に帰す)、佛の慈悲の「光りある」未来(来迎)を信じつつ、感謝の日暮しを行い、少ない善でも他に振り向けられるようにと心がけるような人間を育てようとして釈尊がいろいろな手だてを尽くされて説かれたお経です。

それでは、善導大師と関本師にはどのような差異があるのでしょうか。善導大師は真実心のない人間の、現世における修行とか善行には否定的で、修行は未来(極楽浄土)の事としていますが、関本師は他力に帰した人間は未来を前倒しにして、浄土での修行を、この世で始める報恩感謝の行として日々の暮らしに支点を移しておられます。関本師の独自性は生活者にあります。

《妙星齋》

